自 然 言 語 処 理 101－5
（1994．5．27）

翻訳困難例文の収集と分類

横山 晶一（山形大）、熊野 明（東芝）、望月 泰行（三菱）、
植村 昌俊（沖）、川越 睦（松下）、時岡 洋一（インター）、
安藤 進（ＴＣＣ）、田中 穂積（東工大）

アジア太平洋機械翻訳協会 (Asian-Pacific Association for Machine Translation, 略称AAMT) 例文評価研究会は、機械翻訳システムにおける種々の問題点を、自然言語処理の観点から見直し、研究していくという目的で活動を行っている。1992 年から 1993 年にかけて、機械翻訳評価のための基礎資料として、翻訳困難例文の収集を行った。その目的は、機械翻訳が困難な文にはどのような特徴があるかを分類、分析し、機械翻訳システムの改良に役立つ言語的な性質を解明しようというものである。また、これらの文に対して、前処理の意味での、人間の手による言い換え例をいくつか作成した。言い換えがある程度機械的にできるならば、自動的な前処理システムの可能性につながるためである。例文は、分析の都合上、日英翻訳を想定し、主として日本文に対して収集を行った。これらの例文、言い換え例の機械翻訳とその評価については、別稿にゆずる。

Collection and Classification of Sentences Difficult to Machine-Translate

Shoichi YOKOYAMA (Yamagata Univ.), Akira KUMANO (Toshiba), Yasuyuki MOCHIZUKI (Mitsubishi Elec.), Masatoshi UEMURA (Oki Elec.), Mutsumi KAWAGOE (Matsushita), Yoichi TOKIOKA (Inter Group), Susumu ANDO (TCC), and Hozumi TANAKA (Tokyo Inst. Techno.)

Sentence Evaluation Committee in Asian-Pacific Association for Machine Translation (AAMT) was established for studying various issues in machine translation from the viewpoint of natural language processing. In 1992 and 1993, we collected sentences difficult to machine translate as the basic material of evaluation of machine translation. The purposes are to classify and analyze the characteristics of such sentences, and to make clear their linguistic properties useful for improving machine translation systems. Some paraphrasing for the sentences was made by human for the pre-editing. If paraphrase can be made automatically, it is possible to establish automatic pre-editing system. Japanese sentence are collected because Japanese-English translation systems are concerned. Results and evaluation of machine translation of these sentences are written in another paper.

1．はじめに

アジア太平洋機械翻訳協会（会長：長尾真 京都大学教授）(Asian-Pacific Association for Machine Translation, 略称 AAMT) は、機械翻訳システムの普及・啓発をめざし、機械翻訳システムの技術動向調査を行うなどの目的で 1991 年に設立された。後者の目的を果すために、いくつかの委員会が作られている。例文評価研究会（委員長：田中穂積 東京工業大学教授）はその一つであり、機械翻訳システムにおける種々の問題点を、自然言語処理の観点から見直し、研究していくという目的で活動を行っている。委員会のメンバーは１５名で、機械翻訳メーカーだけでなく、翻訳会社などのユーザも加わっていることが特徴の一つである。

本稿では、この委員会が 1992 ～ 1993年にかけて行った活動の一端を報告する。この期間には、機械翻訳システムの評価と改善につながるものとして、まず、翻訳が困難な例文を選び出して分類し、その性質を検討した。また、例文の言い換えを人手で行った。これらの例文と言い換え例を、前処理なしで機械翻訳システムにかけ、その結果について検討を行った。本稿では、例文の選定とその分類、言い換え例の作成について述べ、機械翻訳とその評価については別稿［１］にゆずる。

2．翻訳困難例文の収集と分類

翻訳困難例文を収集し、その性質を調べることは、自然言語処理や機械翻訳の研究の上で重要である。また、ある程度の例文集を系統的に作成すれば、機械翻訳システムの評価のために用いることができる［2］。ここでは、主として前者の観点から、翻訳困難例文を収集した。

例文の収集にあたっては、日本語、英語の文を対象とし、それらの文の性質が分かるように分類項目を設けた。この項目は、日本電子工業振興協会（電子協）が1985年に行った、機械翻訳のための調査例文の分類に基づいている［３］が、収集した例文と分類項目を検討した結果、いくつかの分類項目を追加したり、細分化したりしたところがある。付録に、この分類の全項目と、翻訳困難例文として選んだ日本語例文を示す。分類項目（頭に英大文字のついたもの）に＊が付加してある箇所が、新たに追加した分類項目である。日本語、英語双方を対象としたために、分類項目がどちらかの言語のみにかたよった項目もある。

結果的には、英語例文が少なかったことと、英語の分析を行うためにはネイティブの協力が必要なことから、対象を日本語文にしぼった。また、例文も、特に翻訳困難なものを少数選択したために、必ずしも分類項目全体を網羅しているものではない。

このうち、新たに加えた分類項目のうちのいくつかと、例文の一部について説明を加える。例文は、ほとんど一つの分類項目に入れてあるが、ごく一部複数の分類項目にまたがっているものがある。また、人間が見てもそもそも曖昧な文もいくつかある。以下の例では、参照の便のために、文の番号を付録の番号と一致させてある。そのために原稿の中で重複する番号があることに留意されたい。

まず、(A3) 特殊構文は、構文構造が特殊な形をとる文をまとめたものである。倒置、特殊構文、分詞構文・不定詞などは、主として英語の特殊構文を想定して設けられた分類項目である。(A34) 被害の受け身は、日本語特有の表現として知られている。ここでは、典型的な例として、

(1)彼女は鳥に逃げられた。

(2)東京の人は地震に慣らされている。

の２つの文を選んでいる。前者は言い換え

例が作りにくい例の一つである。また、後者は、「慣れる」を用いてもよいが「慣れる」と「慣らされる」のニュアンスの違いが問題になることがある。

(A9) 長文は、特に長さを定めているわけではないが、大体５０文字を超えるような文を選んでいる。これらの文の多くは、係り受けの曖昧さが生じたり、文の構造が不明確になっている。また、不必要な接続詞、接続助詞を多用して文の構造を複雑にしていることが多い。一般的には、読点をてがかりとしていくつかの文に分割することができるが、分割の際に語を補ったり、文の構造に手を加えたりする必要がある。

(B1) 機能語の曖昧性については、助詞と助動詞に細分化した。後者の項目には例文がないが、実際には他の箇所に示した例文で、この項目に相当するものが多数存在している。ここでは、

(2)君があの絵が好きだなんて驚きだ。

のように、極めて口語的な表現や、

(4)今夜は私の番なので、それが悲しくて泣いているのです。

のように、特別な「が」格で、「それが」が主語と見なされる可能性があるような文を含んでいる。また、

(5)彼は株で家を建てた。

(7)車が家になる。

のように、途中の省略が多く、このまま直訳しても意味が通らないし、意訳も難しい例がある[1)]。さらに、構文的にはほとんど同じ形をとっているにもかかわらず、

(6a)満員のバスに乗って会社に行く。

(6b)満員のバスに乗って遅刻した。

(6c)満員のバスに乗って恥をかいた。

(6d)満員のバスで会社に行く。

(6e)満員のバスで遅刻した。

(6f)満員のバスで恥をかいた。

のように、意味的な構造が異なる例がある。

(B3) 訳語選択では、

(1)職員室から先生が見える。

のように、可能表現（すなわち、誰かが職員室から先生を見ることができる）なのか敬語表現なのかが曖昧な例を示している。

日本語の翻訳をする際に、もっとも問題になるものの一つは項目 (B5) に示した提題（テーマ）の「は」であろう。ここでは、

(3)セミナーは日程を１日延長する。

のように、日程とセミナーの関係が分からないと解析が困難な例、

(4)システム管理者は、ユーザがＸウィンドウ・システムを起動すると自動的にＭＷＭも起動するように設定していることと思います。

のように、主語の認定が困難な例、

(7)太郎が社長に、次郎は専務となった。

のように動詞が省略され、助詞の繰り返しがない例など、多くの例文が収集されている。

語彙関係では、その他にも、

(1)この種の推論プロセスの具体的なメカニズムは現時点では明らかにされていないが、この推論機構の解明が、自然言語の柔軟な意味理解のモデル化の中心的な問題となる。

のように、逆接でない (B6) 接続助詞の「が」（上記の文は長文でもある）や、

(2)アメリカのソビエトへの軍事介入は外交問題へと発展しそうです。

のように係り受けが曖昧になりやすい (B7) 所有（格助詞）の「の」などがある。

文体・用法の曖昧性では、慣用句、呼応、補助動詞などの項目を追加している。(C5) 慣用句・共起関係では、

(6)これでは、元も子もない。

[1)] 英語に直訳してA car becomes a house.という言い方が可能であるというネイティブもいる。

といった言い換えが非常に難しい慣用句などを選定している。また、(C4) 補助動詞では、

(3a)その時、彼は酒を飲んでいた。

(3b)事故当時、彼は酒を飲んでいた。

のように、類似の構文構造を持つが、「ている」の訳し分けが必要な例などをあげている。

表記の曖昧性は、他の分類項目にあった括弧の処理や、数量表現などをこちらに移して新たに立てた項目である。ここでは、これらの他に、例としてはそれほど多くないが、(D11) 自立語の

(2)畜産物価格安定法

のように語の切れ目が明確でないもの、(D2)漢字の読み方の

(2)酒は米で作られる。

のように、「コメ」か「アメリカ」か不明確なものが扱われる。

3．言い換え例の作成

前節で得られた例文に対して、人手によって言い換え例を作成した。方針としては、言い換えたときに、なるべく曖昧性が少なく翻訳できると考えられ、しかも元の文の意味を著しく損なうことのないように言い換えをした。その理由は次の通りである。

(a) 言い換え例を作成するときに元の例文の問題点が明らかになる。

(b)言い換え例の翻訳文を検討することによって、言い換えの適否が分かる。

(c) 系統的な言い換えが可能な構文、意味があれば、自動化できる。つまり、自動前処理システムといったものが可能になる。

(d) 元の例文と言い換え例を比較することによって、例文入力時に、例文を分析して、翻訳困難な場合には警告を発することができる（［1］参照）。

(e) 言い換え例がうまく翻訳できない場合には、言い換え例そのものを翻訳困難例文の分析対象とすることができる。

付録に一部の文について、言い換え例を示す。文番号が英大文字で終わっているものが、対応する番号文の言い換え例である。また、その他の文のうちで、いくつか言い換え例として留意すべきものについては以下で述べる。すべての言い換え例は、［4］に示してある。

(1)自分でラジオが直せますか。
(1A)あなたは自分でラジオが直せますか。
(1B)あなたはあなた自身でラジオが直せますか。
(1C)あなたは自分の手でラジオが直せますか。
(1D)あなたはあなた自身の手でラジオが直せますか。
(1E)あなたはラジオを直せますか。
(1F)あなたはラジオが直せますか。
(1G)あなたはラジオを修理できますか。
(1H)自分でラジオを直すことができますか。

図１　言い換え例（１）

図１は、最初の文「自分でラジオが直せますか」に対する８つの言い換え例を示したものである。この図から分かるように、「自分」の部分の曖昧性を「あなた」、「あなた自身」で言い換えることによって解消することを狙っている。また、「直せますか」の部分を「直すことができますか」または「修理できますか」といった形で明確化している。

図２は、機能語の曖昧性の中で助詞の部分を取り上げたものである。(1a) と (1b)とが元の文で、両方とも「ために」を用いているが、前者は原因を表し、後者は目的を表す。前者の１１の言い換え例はいずれも原因を明確にすると考えられる言い換え例、また、後者の８つの言い換え例は、目的を明確にするための言い換え例となっている。

図3は、文体、用法等の曖昧性の中から、省略部の補完の例を示したものである。この例では、語順を入れ換えることによって、引用の範囲を特定できるようにしている。また、動詞そのものを言い換えることも行っている。ここには示していないが、引用の範囲を明確にするために一部分を括弧でくくる言い換えも行っている。

(1a)勉強のために、目が悪くなった。
(1aA)勉強によって、視力が低下した。
(1aB)勉強のために、視力が低下した。
(1aC)勉強によって、目が悪くなった。
(1aD)勉強のせいで、目が悪くなった。
(1aE)勉強がもとで、目が悪くなった。
(1aF)勉強が原因で、目が悪くなった。
(1aG)勉強したために、目が悪くなった。
(1aH)勉強したので、目が悪くなった。
(1aI)私は勉強をしすぎて、目が悪くなった。
(1aJ)過度の勉強で、目が悪くなった。
(1aK)はげしく勉強したことが原因で、目が悪くなった。
(1b)勉強のために、本を買った。
(1bA)勉強のために、私は本を買った。
(1bB)私は勉強のために、本を買った。
(1bC)勉強するために、本を買った。
(1bD)勉強をするために、本を買った。
(1bE)勉強用に、本を買った。
(1bF)勉強しようとして、本を買った。
(1bG)勉強する目的で、本を買った。
(1bH)勉強のための本を買った。

図2　言い換え例（2）

(4)この石の方が重いと思うが、あの石の方が重いと言われている。
(4A)私はこの石が重いと思うが、あの石がより重いと言われている。
(4B)私はこの石があの石より重いと思うが、人々はあの石の方が重いと言う。
(4C)この石よりあの石の方が重いと言われている。
(4D) この石はあの石に比べて重いと言われている。

図3　言い換え例（3）

4．おわりに

ここに示した分類項目は、今後とも改善の余地があり、他の分類［2］等と比較しながら検討を重ねて行く予定である。また、分類項目すべてにわたって網羅的に例文を増加することも考えている。

言い換え例が適切かどうか、自動的に言い換えを行ったり、警告を出したりすることがどの程度可能かについては、［1］でもある程度検討したが、さらに研究する必要がある。これの点について、機械翻訳結果と対照しながらさらに研究を進めていく予定である。

謝辞

本委員会を支えて下さるAAMT運営委員会ならびに事務局（事務局長 星野 禎男氏）の方々に感謝します。また、分析の途中まで委員、オブザーバーとして本委員会の活動に参加された方々に感謝します。

参考文献

［1］横山、徳永、亀田、内尾、芦崎、野田、相澤、中、田中：翻訳困難例文の機械翻訳と評価、本研究会資料101-6 (1994)

［2］池原、白井：日英機械翻訳機能試験項目の体系化、電子情報通信学会言語理解とコミュニケーション研究会資料 NLC90-43 (1990)

［3］付録　機械翻訳例文資料、日本電子工業振興協会：機械翻訳システムの調査研究　昭和６０年１２月　60-c-513(1985) pp.77-121

［4］研究成果報告書（９３年度版）、アジア太平洋機械翻訳協会 (1993)

付録　例文の分類と言い換え例

以下に示すのは、本文でも言及したように、分類の全項目（＊の付いた項目は新たに付け加えたもの）と、日本語選定例文、ならびに一部の文の言い換え例である。/*, */でくくった部分はコメント、数字または英小文字で終わっている文は、選定した例文、英大文字で終わっている文はその文字を取った文番号を持つ例文の言い換え例を示す。例文の最後の記号は、複数の分類項目をもつものを示す。

(A)構文
(A1)係受け
(A11)述部回り／主格、対格等
(1)自分でラジオが直せますか。
(2)危険な液体には色がつけてある。
(2A)危険な液体には色がついている。
(2B)危険な液体は色がつけられている。
(2C)危険な液体は着色されている。
(2D)危険な液体には着色してある。
(2E)危険な液体は色付けしてある。
(2F)危険な液体に着色する。
(A12)主部と述部の対応
(A13)連体修飾
(1)大きな飛行機のプロペラ
(2)古い学校の歴史
(3a)放送局へ行く道を教えてください。
(3aA)放送局への道を教えてください。
(3aB)放送局への行き方を教えてください。
(3aC)わたしに放送局への道を教えてください。
(3aD)放送局への道をわたしに教えてください。
(3b)放送局へ行くバスを教えてください。
(3bA)放送局へ行くためにはどのバスに乗るかを教えてください。
(3bB)放送局へ行くためにはどのバスに乗るかをわたしに教えてください。
(3bC)放送局へ行くにはどのバスに乗ったら良いか教えてください。
(3bD)放送局へ行くにはどのバスに乗れば良いか教えてください。
(3bE)放送局へのバスを教えてください。
(3bF)放送局へ行くバスはどれですか。
(4)彼が鰯を盗んだと思った猫。
(A14)連用修飾
(1)この現実からスタートしたときに問題になるのは、アメリカの活躍である。
(2)アメリカの希望によって、アメリカ国内で生産し、販売するという動き。
(3)タバコは人体に有害だと言われている。
(4)オペランドは必ずしも指定する必要はありません。　/*オペランド -> 指定する，必ずしも -> ありません */
(5)ユーザは置換モードよりも挿入モードの方を高く評価する。
(6)彼は魚を東京へ買いに行った。
(A2)並列構造
(A21)並列構造の認定
(1a)（日本の動物）と（植物の歴史）
(1b)日本の（動物と植物）の歴史
(1c)日本の動物と植物の歴史
(2)我々は、２１世紀の高度情報通信社会に向けて世界的な視野で、情報科学、計算機通信の総合的な研究を進めている。
(3)鍵盤入力等の人手による入力、文字自動読取、音声入力等のパターン認識による自動入力、印刷出力、音声出力など。(D3)
(A22)連用中止の擬似並列構造
*(A3)特殊構文
*(A31)倒置
*(A32)特殊構文
*(A33)分詞構文・不定詞
*(A34)被害の受け身
(1)彼女は鳥に逃げられた。
(2)東京の人は地震に慣らされている。
*(A4)挿入句
*(A9)長文
(1)組織における実際の作業は、複数人による共同作業という形態をとることが多いにもかかわらず、そのような共同作業を支援する環境はあまりなく、個人の生産性向上にのみ重点が置かれているのが現状である。
(2)科学技術の各分野において新しい専門語は日夜作られ、どんどん増加しているから、これをうまく収集して辞書を常に更新する体制を取ることが必要である。
(3)このセミナーは、機械翻訳による翻訳の増加を進めている団体が主催したもので、最後にメーカーとユーザが協力して、来月、東京で開かれるシンポジウムで今後の展望について検討していくという共同声明を出しました。
(4)回路が短絡していると、ヒューズが溶断することはもちろん、場合によっては機器を

損傷する恐れもあるので、電源を投入する前に回路抵抗を測定することを怠ってはいけません。

(B)語彙

(B1)機能語の曖昧性

*(B11)助詞

(1a)勉強のために、目が悪くなった。

(1b)勉強のために、本を買った。

(2)君があの絵が好きだなんて驚きだ。

(3)私が留守の間に誰かが尋ねてきたようです。

(4)今夜は私の番なので、それが悲しくて泣いているのです。

(5)彼は株で家を建てた。

(6a)満員のバスに乗って会社に行く。

(6b)満員のバスに乗って遅刻した。

(6c)満員のバスに乗って恥をかいた。

(6d)満員のバスで会社に行く。

(6e)満員のバスで遅刻した。

(6f)満員のバスで恥をかいた。

(7)車が家になる。

(7A)車は家として使うことができる。

(7B)私は車を家として使う。

(7C)車を家の代わりに使う。

(7D)彼は車を家として使う。

(7E)車に住んでいる。

(7F)私は車を売って、家を買った。

(8)新しい酒を飲んでは点数を付けるのが彼の仕事である。

(9a)彼は倒れるまで仕事をした。

(9b)彼は倒れるほど仕事をした。

*(B12)助動詞

受身／可能／敬語

(B2)多義語、多品詞

(1a)彼は一部修正した。/* 彼は一部修正した。= 彼は一部を修正した */

(1b)資料は一部修正した。

(2)データを書き出しファイルに保存する。/* 連用中止(書き出して保存する)？連用名詞(書き出しファイル)？*/

(2A)データを書き出し、ファイルに保存する。

(2B)データを書き出し、それをファイルに保存する。

(2C)データを書き出してファイルに保存する。

(2D)データをファイルに書き出すことにより、保存する。

(2E)データを書き出し用ファイルに保存する。

(2F)データを出力ファイルに保存する。

(3a)まだ着られた服を捨てた。

(3b)天皇陛下が着られた服を拝見した。

(3c)彼女に先に着られた服はいやだ。

(4)山本という人がやってきた。

*(B3)訳語選択

(1)職員室から先生が見える。

(2)高い

(a)背が高い

(b)物価が高い

(c)気温が高い

*(B4)接頭語、接尾語

*(B5)提題（テーマ）の「は」

(1)妻は顔がきれいだ。

(2)この事故は君の不注意が原因で起こった。

(3)セミナーは日程を１日延長する。/* 日程とセミナーの関係が分からないと困難 */

(3A)セミナーの日程は１日延長された。

(3B)セミナーの日程は１日追加された。

(3C)セミナーの日程を１日延長する。

(4)システム管理者は、ユーザがXウィンドウ・システムを起動すると自動的にMWMも起動するように設定していることと思います。/* 主語の認定が困難 */(CA)

(5)この報告については、彼が訂正する。

(6)接着剤使用の場合は、ほこりをすべて取り除く。

(7)太郎が社長に、次郎は専務となった。

(8)次回の会議については、社長の都合により追って通知します。

(9)私は週末はテニスに決めている。

(9A)私は週末はテニスをすることにしている。

(9B)私は週末にテニスすることに決めている。

(9C)私は週末にはテニスをすることを決めている。

(9D)私は週末は決まってテニスをする。

(9E)私は毎週末、テニスをする。

(9F)私は毎週末にテニスをする。

(9G)週末については、私はテニスに決めている。

(10)その食品はカロリーが高い。

(11)外は雪です。

(12a)この病気は注射でだけ治せる。

(12b)この病気は注射だけで治せる。

(13)佐藤は佐藤なりの仕事しかできない。

(13A)佐藤は佐藤の程度の仕事しかできない。

(13B)佐藤は彼の方法でのみ仕事ができる。

(13C)佐藤は佐藤なりの仕事だけできる。

(13D)佐藤は佐藤なりの仕事以上のことはできない。
(13E)佐藤は自分なりの仕事しかできない。
*(B6)接続助詞の「が」
(1)この種の推論プロセスの具体的なメカニズムは現時点では明らかにされていないが、この推論機構の解明が、自然言語の柔軟な意味理解のモデル化の中心的な問題となる。
*(B7)所有の「の」
(1)東京は日本の首都です。
(2)アメリカのソビエトへの軍事介入は外交問題へと発展しそうです。
*(B8)所有代名詞
(1)あなたは手に何を持っていますか。
(C)文体、用法等の曖昧性
(C1)日英の発想の違い
(1)拝啓、陽春の候、貴社ますますご盛業の趣、大慶に存じ上げます。
(2)さて、突然のお願いで恐縮ですが、弊社との新規お取引をご依頼申し上げたく、本状を差し上げました。
(3)彼女には子供がいる。
(4)彼女は雨を降らせた。
(5)道が汚れた。
(C2)論理的曖昧性
(C3)冗長表現
(C4)省略補完、照応関係認定困難
(C41)照応関係曖昧
(C42)省略部の補完
(1)最近、このような質問を受けるが、景気は上昇傾向に向かっているといえる。
(2a)妻には、遺産として自宅と土地を残す。
(2b)息子には、現金を考えている。
(3)脂肪の割合は３０％がよいと提唱されている。
(4)この石の方が重いと思うが、あの石の方が重いと言われている。
(5)先行詞—照応詞がこの順序で生起する場合の照応は前方照応、逆に先行詞が照応詞に後続する場合には、後方照応と呼ばれる。
(6a)ビールを買って飲んだ。
(6b)ビールを飲んで踊った。
*(C5)慣用句・共起関係
(1)話をつける
(2)胡麻をする
(3)護摩の灰
(4)首を切る
(5a)角のガソリン・スタンドで油を売っている。
(5b)角の喫茶店で油を売っている。
(6)これでは、元も子もない。
(7)どうなることやらと彼は言った。
*(C6)呼応
(1)日本では外国に比べてあまりに土地が高すぎる。
*(C7)敬語・丁寧表現
*(C8)仮定法
*(C9)補助動詞
(1)水を汲みに行って来てください。
(2)バブルの崩壊もあり、不景気が続いている。
/*「もあり」の訳が問題 */
(3a)その時、彼は酒を飲んでいた。
(3b)事故当時、彼は酒を飲んでいた。
(4)彼女は毎日５時に走っている。
*(CA)主語認定
*(D)表記
*(D1)形態素（単語）区切り
*(D11)自立語
(1a)裏には庭がある。
(1b)裏に埴輪がある。
(2)畜産物価格安定法
(3)今日本人に会った。
*(D12)付属語（助詞相当語）
*(D2)漢字の読み方
(1)牛乳を一日に三回飲む。
/* 一日（いちにち，ついたち）*/
(2)酒は米で作られる。
/* 米（こめ，アメリカ）*/
(D3)非言語的処理／括弧、引用符、読点等
(1)太郎、これは君のものですか。
(3)私の車の番号は、「なにわ５３へ１０００」です。
(D4)数量表現・数字関係
(1)法令の２条の内容を検討する。
/* 法令第２条か、どこかの２条分か(=量)が曖昧 */
(2)所長は３人だけでも合格して欲しいのだ。
/* 所長が３人いるのか、３人の人に所長が期待しているのか曖昧 */
(3a)彼は３日は勉強した。
(3b)３日は彼の誕生日だ。
*(D5)箇条書き

*(E)その他の難解な文